

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「見せつけろ！己の底力」「No Limit 福泉」のスローガンの下、
実社会とのつながりや体験的な学びを重視して、次代を担う良識ある社会人として行動できる人材を育成し、地域に信頼され貢献できる学校をめざす。

- 1) 「夢の実現に向けて意欲的にチャレンジし、努力を惜しまない生徒」を育成する。
- 2) 「学校、社会のルールを守り、集団生活のなかで他人を思いやり、協力することができる生徒」を育成する。
- 3) 「自分の能力や興味を発展させるために、学校生活に積極的に取り組む生徒」を育成する。

2 中期的目標

1 「学び続ける力」の育成

- (1) 「分かる・できる授業」による「基礎力」の定着をめざす。
 - ・少人数・習熟度別授業、モジュール的ミニ教材、ICT等の活用と継続的な授業研究による系統的・効果的な教科指導の確立をめざす。
- (2) 「受動的な学び」と「能動的な学び」との併用による学習意欲の向上、学習内容の深化をめざす。
 - ・これまで実践してきた授業の内容や方法等を再点検しながら「主体的・対話的で深い学び」の日常化をめざして授業研究を進め、カリキュラム全体の改善・充実を図る。併せて本校生徒に応じた観点別学習状況評価を推し進め、『福泉スタンダード』の確立をめざす。

※3年後の指標（30年度実績）

- ・授業アンケート「興味・関心をもてた」、「知識・技能が身に付いた」3.3以上(3.19)
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「授業はわかりやすく工夫されている」：80%以上肯定（78%）

2 「未来を切り拓く力」の育成

- (1) 教科・総合的な学習の時間・特別活動等を活用したキャリア教育の更なる充実を図る。
 - ・大学や企業・外部講師等を活用した体験的な学習（インターンシップ、体験型進路説明会等）を継続・発展させ、社会への視野を広げ、生徒の進路意識の向上をめざす。
 - ・カリキュラムマネジメント（再点検・改善）と連動させて、入学から卒業、さらに将来を見通したキャリア教育の確立を図る。
- (2) 各種検定、大学進学対策室による進学講習等、生徒の能力の発展や進路実現に向けた取り組みをさらに進める。

※3年後の指標（30年度実績）

- ・年度末進路決定率100%（95%）、学校斡旋就職[一次合格率85%以上（80%）]
- ・進学者数における四大進学者の割合30%（23%）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）：「将来の進路や生き方などについて、学んだり考えたりする機会がよくある」85%以上（78%）

3 「他者と協働できる力」の育成

- (1) 将来の社会人・職業人を見据えた全教職員による生活指導により、規範意識の醸成と自律的行動力の育成を図る。
 - ・「励まし育てる」精神を大切にしつつ、あいさつ、マナー、遅刻、身だしなみ等、日々生徒に寄り添いながら向き合う指導を大切にする。
 - ・家庭との連携協力体制を確固たるものにするため、丁寧できめ細かな情報の共有を進める。
- (2) 家庭・地域等と連携して安全で安心な学校づくりを進め、生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上を図る。
 - ・教育相談および生徒支援体制を強化し、いじめ、ネットトラブル、不登校、体罰・セクハラ等の早期発見と適切な対応につなげる。
 - ・SC、SSWや関係機関との連携を深め、教職員の対応力の向上を図る。
 - ・PTAや地域との交流活動（防災教育・ホテル鑑賞会・農業体験等）やきめ細かな情報提供を通じて、開かれた学校づくりを進める。
- (3) 生徒会活動・部活動などを通じて、社会とかかわる実践的な行動力の伸長を図る。
 - ・学校行事、学年行事、ボランティアや地域との交流活動等の改善・充実に努める。
 - ・国際交流を推進し、今日のグローバル社会に主体的に関わろうとする意志と行動力の醸成を図る。

※3年後の指標（30年度実績）

- ・遅刻総数10,000件以下（10,075件）、部活動加入者定着率75%以上
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「学校の決まりやルールは適切である」85%以上（79%）
「学校の決まりやルールをよく守っている」教員回答とのギャップを30ポイント以下（52ポイント差）
「先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる」90%以上（84%）
「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」90%以上（83%）
「部活動や生徒会活動は活発だ」教員回答とのギャップを30ポイント以下（46ポイント差）

4 「信頼される学校」・「進化する学校組織」の構築

- (1) 校内授業研究、OJTに加えて、中学校や他の高校、関係機関等との連携・情報提供を計画的に進めて、教職員の力量アップを図るとともに、本校教育への信頼度アップにつなげる。また、ホームページを充実させるなど迅速な外部への情報発信に努める。
- (2) ミドル層を核とした、メンター制による教職員の育成支援や業務の協働を促進する。
- (3) 校務運営を継承発展させる教員の育成を図る。
 - ・OJTによる校内情報ネットワークの活用、生徒支援、分掌業務のスリム化と効率化を推進すると同時に、中核となる教員の育成を図る。

※3年後の指標

- ・入学者選抜の志願倍率 1.0倍以上を維持（31年度選抜実績1.02倍）
- ・学校自己診断「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」85%以上（30年度実績72%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 ※ () 内は 30 年度実績	自己評価
学び続ける力の育成	(1) 「基礎力」の定着 (2) 学習意欲の向上、学習内容の深化	(1) スモールステップや学びのユニバーサルデザインを意識して、ICT機器、資料の活用など、「わかる授業」を工夫する。 (2) 校内初任研を核に他の教員を巻き込みながら、ICTの活用や授業方法等、授業研究を進める。	(1) (2) ・授業アンケートの「興味・関心をもてた」、「知識・技能が身に付いた」とともに 3.3 以上(3.19) ・自己診断「授業はわかりやすく工夫されている」80%以上(78%)	
未来を切り拓く力の育成	(1) キャリア教育の更なる充実 (2) 生徒の能力の発展や進路実現に向けた取組み	(1) 企業・大学等外部機関との連携を進め、体験的な学習を核に、進路意識の向上を図る。 (2) 考査や休業期間等の更なる活用等工夫して、進学講習・キャリア支援行事等の取組みを進める。	(1) 自己診断（生徒）「進路や生き方などの学習機会」生徒肯定的回答 3%up(78%) (2) 進路決定率 100%(95%) 学校幹旋一次合格率 85%以上(80%) 進学者における四大進学者の割合 30%(23%)	
他者と協働できる力の育成	(1) 規範意識の醸成と自律的行動力の育成 (2) 生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上	(1) ア. 厳しい環境に置かれている生徒一人ひとりに寄り添いながら、あいさつ、各種マナー、遅刻・服装・頭髪等、家庭と連携を密にした理解と協力の下、全教職員による粘り強い指導の継続を行う。 イ. SNSに係るトラブル防止に向けた啓発 (2) ア. 教育相談委員会等を核に、保健安全部・生活指導部・学習支援部が協力体制を構築してSC・SSW等との連携を進め、中退やいじめ等の防止、丁寧な対応に組織的に取り組む。 イ. 教員が一丸となって部活動や学校行事等の魅力作りに関わる。生徒の活動の様子等を掲示するコーナーやWeb ページの更なる充実など、生徒の頑張っている姿を新鮮なうちにPRする。	(1) ア. 遅刻総数 10,000 件以内に (10,075 件 28.8%減)及び生活指導事案や苦情への即応 (2) ア. 自己診断（生徒）の「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」、「いじめに、しっかり対応してくれる」共に 90%以上(ともに 83%) イ. 部活動加入者の定着率 75%以上	
信頼される学校、進化する学校組織の構築	(1) 教職員の力量と本校の信頼度アップ (2) 教職員の育成支援や業務の協働を促進 (3) 校務運営を継承発展させる教員の育成	(1) ア. 授業研究・生徒対応研修等の定期的開催 イ. 保護者・関係団体・地域等への情報提供・収集の迅速化および連携の強化 ウ. 個人情報の管理等、コンプライアンス意識の向上・業務等の再確認 (2) 校内初任研とミドル層の校内研修とを連携させるなど、若手教員の育成支援や学校運営への積極的な参画を図る。 (3) ア. 前任者等と協働しながら、業務内容の改善や新たな体制づくりを進める。 イ. ノウハウ等の継承に向けた体制や資料の整備をする。	(1) ア. 各学期 1 回以上開催 アイ. 中学校等と連携した研修の複数回開催、多様な形態の広報活動の工夫 ウ. 定期的な確認や研修の実施 (2) ・各学期 1 回以上開催 ・他校視察等を奨励し、初任者各自最低 1 回は校内で研修発表の場を設定 (3) アイ. 業務改善に特化した運営メンバーによる会議を年 3 回以上開催	